

# JIS

## マグネシウム合金継目無管

JIS H 4202 : 2018

(JMA/JSA)

平成 30 年 10 月 22 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## 日本工業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	酒 井 信 介	横浜国立大学
(委員)	伊 藤 弘	国立研究開発法人建築研究所
	宇 治 公 隆	首都大学東京 (公益社団法人土木学会)
	大 石 美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	大 瀧 雅 寛	お茶の水女子大学
	奥 野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	金 丸 淳 子	公益財団法人共用品推進機構
	鎌 田 実	東京大学
	河 村 真紀子	主婦連合会
	佐 伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	椎 名 武 夫	千葉大学
	高 田 祥 三	早稲田大学
	高 増 潔	東京大学
	千 葉 光 一	関西学院大学
	寺 澤 富 雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	長 井 寿	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	長 田 三 紀	全国地域婦人団体連絡協議会
	奈 良 広 一	独立行政法人製品評価技術基盤機構
	西 江 勇 二	一般財団法人研友社
	福 田 泰 和	一般財団法人日本規格協会
	槇 徹 雄	東京都市大学
	三 谷 泰 久	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	棟 近 雅 彦	早稲田大学
	村 垣 善 浩	東京女子医科大学
	山 内 正 剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
	和 辻 健 二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 39.3.1 改正：平成 30.10.22

官 報 公 示：平成 30.10.22

原 案 作 成 者：一般社団法人日本マグネシウム協会

(〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-6-10 くりはらビル TEL 03-3243-0280)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 種類	2
5 品質	3
5.1 外観	3
5.2 化学成分	3
5.3 機械的性質	5
6 寸法及びその許容差	6
6.1 寸法	6
6.2 寸法の許容差	6
7 試験	8
7.1 分析試験	8
7.2 引張試験	8
8 検査	8
9 表示	8
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	9
解 説	12

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本マグネシウム協会（JMA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS H 4202:2011** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格に従うことは、次の者の有する特許権等の使用に該当するおそれがあるので、留意する。

特許番号	特許権の名称	所有者	有効期限
3030338 号	高強度難燃性マグネシウム合金の製造方法	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2018 年 10 月 5 日
4415098 号	難燃性マグネシウム合金押出材の製造方法及びその押出材	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2025 年 3 月 15 日
5035893 号	高強度高延性難燃性マグネシウム合金及びその製造方法	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2027 年 8 月 30 日
3905115 号	高強度高靱性マグネシウム合金及びその製造方法	河村能人	2024 年 11 月 26 日
4500916 号	マグネシウム合金及びその製造方法	国立大学法人熊本大学 本田技研工業株式会社 不二ライトメタル株式会社 株式会社日本製鋼所	2024 年 9 月 28 日
5024705 号	マグネシウム合金材およびその製造方法	株式会社神戸製鋼所 日産自動車株式会社 国立大学法人熊本大学	2027 年 11 月 16 日

上記の、特許権等の権利者は、非差別的かつ合理的な条件でいかなる者に対しても当該特許権等の実施の許諾等をする意思のあることを表明している。ただし、この規格に関連する他の特許権等の権利者に対しては、同様の条件でその実施が許諾されることを条件としている。

この規格に従うことが、必ずしも、特許権の無償公開を意味するものではないことに注意する必要がある。

この規格の一部が、上記に示す以外の特許権等に抵触する可能性がある。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権等に関わる確認について、責任はもたない。

なお、ここで“特許権等”とは、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権をいう。

## マグネシウム合金継目無管

## Magnesium alloy seamless pipes and tubes

## 序文

この規格は、2007年に第4版として発行されたISO 3116を基とし、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、附属書JAに示す。

## 1 適用範囲

この規格は、押出加工及び引抜加工によって製造した、断面が円形のマグネシウム合金継目無管（以下、管という。）について規定する。

**注記** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 3116:2007, Magnesium and magnesium alloys – Wrought magnesium alloys (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

## 2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS H 0001 アルミニウム、マグネシウム及びそれらの合金－質別記号
- JIS H 0321 非鉄金属材料の検査通則
- JIS H 1331 マグネシウム及びマグネシウム合金－分析用試料採取方法及び分析方法通則
- JIS H 1332 マグネシウム及びマグネシウム合金中のアルミニウム定量方法
- JIS H 1333 マグネシウム及びマグネシウム合金中の亜鉛定量方法
- JIS H 1334 マグネシウム及びマグネシウム合金中のマンガン定量方法
- JIS H 1335 マグネシウム及びマグネシウム合金中のけい素定量方法
- JIS H 1336 マグネシウム及びマグネシウム合金中の銅定量方法
- JIS H 1337 マグネシウム及びマグネシウム合金中のニッケル定量方法
- JIS H 1338 マグネシウム及びマグネシウム合金中の鉄定量方法
- JIS H 1340 マグネシウム合金中のジルコニウム定量方法
- JIS H 1341 マグネシウム合金中のカルシウム定量方法
- JIS Z 2241 金属材料引張試験方法